

違う所属 (ヨハネ 18:36-37)

世の中で成功したように見える人も、実は、表には見せないのですが、隠している問題で悩んでいることが多くあります。また、目に見えるように問題が現れている人々は、解決がわからずに、悲しむしかない状態です。そのような人々にまことの解答を与えて助けるために、クリスチャンは現場に遣わされています。ですから、実力や能力とは関係なく、現場で勝利することは当然です。そのことを心にとどめましょう。しかし、実際に現場で勝利を逃している場合があります。それは、自分が世の中の人と、根本的にちがう存在だという、聖なる意識がないからです。なにかをすれば良いのかとか、なにが問題なのかと考えるのではなく、勝利が決まっているので、「ちがうという意識」を持つようにしましょう。

きょうの聖書箇所は、ピラトの尋問にイエス様が答えられる場面です。イエス様はご自分は世のものではない、いっしょなら、弟子たちが戦ったはずだと言われ、所属が違うことを言われます。私たちは、イエス様を救い主として信じて受け入れたので、同じことを告白するようにしましょう。

そのために、**未信者の所属は世の国**だと、明確にする必要があります。どんなに成功した人、地位の高い人でも、また、反対にホームレスのような人や、やくざと言われる人であっても、性格がやさしくても、複雑な人でも、未信者はみんな罪の下にいて、罪に属しています(ローマ 3:9)。それゆえ、律法の下で、さばきに服すしかありません(ローマ 3:19)。根本的に、罪と死の原理の中で、ほろびる運命に属しています(ローマ 8:2)。父である悪魔と言われるように、悪魔に属しているのです(ヨハネ 8:44)。それは、気づかず、認めなくても、事実です。死の恐怖におびえる、死の奴隷であり(ヘブル 2:15)、生まれながら御怒りを受けるべきほろびの運命です(エペソ 2:3)。この事実を真っ向から否定して、罪に属していることを認めないのが、罪の特徴です。そして、未信者の結末は、死後にさばかれて(ヘブル 9:27)、再臨の時には、悪魔のために用意されている火の池に投げ込まれます(黙示 20:15)。所属がそうなので、思いや行いを変える前に、所属を取り替えなければなりません。このように運命の鎖に縛られて生きているので、心も精神も病気になるります。

未信者はこのような所属なので、戦いは自分の

ためでしかありません。自分がうまくいくことが幸せて、そうでないと不幸だと思えます。その戦いしかできません。そして、お金の戦いをします。経済的なことが生きるメインテーマになっているので、肉のことだけが戦いです。そして、成功のためには手段を選びません。自分がうまく行って、経済的に豊かになり、成功するために、競争して、相手をつぶそうとします。それが戦争に発展することもあります。

信者が属しているところは、このような未信者と同じではありません。**神の国に属する存在**です。未信者の滅びの運命からは解放されています。死からいのちに移っているのです(ヨハネ 5:24)。悪魔のしわざを打ちこわされたキリスト・イエスを信じて受け入れたという1つの理由で、ほろびの国から、いのちの神の国に移されました。そして、神の家族と言われています(エペソ 2:19)。イエス様とともに

天の御座にいる(エペソ 2:6)、天の御国に所属する者です。このように根本的に違うことを意識することによって、自分の弱さやあやまちと関係ない勝利を体験することができます。目の前のことがすべてではありません。神様に用いられるために必要なプロセスです。自分はちがうと意識しましょう。肉によって生まれたのではない、神から生まれた子どもで(ヨハネ 1:12,13)、神様の霊を受けて、神様をアバ父と呼ぶことができる神様の家族です(ローマ 8:15)。根本的に全然ちがうことを覚え、イエス・キリストに目をとめて、目を離さずに集中しましょう。神の神殿と呼ばれる(1コリント 3:16)尊い存在です。神様が「おまえはわたしのもの」と、証印を押してくださいました(エペソ 1:13)。キリストのからだなる教会です。キリストが頭で、からだとして、くっついてひとつとなっているのです。ぶどうの木にくっついて属している存在です(ヨハネ 15:5)。世の中の人と同じ生活をしているのですが、同じではないということが、スタートです。このスタートを切るとき、神様の導き、答えを見ることができます。ちがう意識をはっきり持っている、未信者と同じ戦いに流されることはありません。みことばを握り、集中して、この世に属さない者だという聖なる意識を持ち、スタートしましょう。天の御国のパスポートをもらいました(ピリピ 3:20)。神の国に属する信者は、結末も神の国です(ルカ 16章)。新しい天と地、すばらしい世界が結末です(黙示 21、22章)。この違いを意識して、プ



ライドを持ちましょう。

なにかをすることの前に、この意識を持ち、戦いがちがうことを確認しましょう。信者は、問題を心配する必要はなく、希望がある恵みの世界に入っている、戦いはただひとつだけです。自分が世界中の人々を救おうとされている神様の計画、世界福音化のために、用いられるラインに並んでいるので、世界福音化以外の目的では戦いはありません。**世界福音化のテーマをもって、神の国とその義とを求め、福音宣教、世界福音化のために、なにが益になるかを問いかけてつづいていくことが戦い**です。パウロは、そのためになら、逮捕されて苦しむとしても、罪囚になることを選びました。神の国ゆえ、十字架にかかる戦いが、イエス様の戦いでした。信者の戦いは、**十字架の福音の奥義が解き明かされるかどうか**が戦いです。真理とは、イエスがキリストであることで、それを信じるなら、永遠のいのちを得ることです。その十字架の奥義と、福音の真理が解き明かされることを選ぶのが信者の戦いです。神の国に属するちがう存在なので、他のテーマはありません。

メッセージカード

ヨハネ 18:36~37、違う所属

なるほど/さまよい苦しんでいる現場を生かす真の勝利は、信者は根本的に未信者と所属が異なり、神の国に属していることを意識するところからすなわち聖なる意識から始まるし、その時次元の違う人を生かす戦いをするようになる。ならば/目覚めた時、まず所属を確認し、現場に行けば、まず所属を意識しよう。何も心配せずに、どうすれば十字架の福音が伝えられるかという一つの戦いに集中しよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2017年11月12日)

1部礼拝 : 救われた者の真の祝福 (マタ 16:13-20)

真の救いと答えが何かを知って、真の福音と神様のみことばを握って、他の人ができないただ、唯一性、再創造の答えを味わうようにされて感謝します。神の子どものプライドを持って、世の偽成功にだまされませんように。信徒たちの話を聞いて試みにあわずに、福音の本質を握って力を得て証人になりますように。私の主人、私のキリスト、生きておられる神の御子となるキリストの契約を握って、その祝福を味わいながら、毎日キリストを見つけて、与えられる力で勝利しますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2部礼拝 : 237カ国 — 地域別に結ぶべき (マタ 28:16-20)

ただキリスト、ただ神の国、ただ聖霊の契約を握った私が行く場所ごとに、聖霊に働かれ、大きな喜びと大胆さ、大きな力を与えてくださり感謝します。神様が約束されたみことばが、私と教会と現場で成就される働きと癒されるみわざが起きますように。この契約を握って祈りながら、世の終わりまでともにおられる祝福を味わって、行く場所ごとに出会いの祝福を味わい、レムナントが立ち上がりますように。福音を持って文化の流れ、宗教の流れ、政治の流れを変えて、個人集中時間を味わいますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

ん。戦いを変えましょう。パウロは、ひとりでもたましいが救われることを願いました(1コリント 6:7)。また、復讐はしないで、平和を保つ(ローマ 12:14-21)と言いました。キリストの栄光に役立ち、ひとりでも人が救われるため、福音宣教、世界福音化のためなら、ゆずるということです。聖霊が臨まれるときに、証人になることが戦いです。

朝に目が覚めたら、**自分の所属を確認**しましょう。思い切り告白して、現場でも確認しましょう。私はちがうと確認できたら、なにも心配しないで、ひとつの戦いに集中しましょう。**十字架の福音が自分を通してどうしたら宣べ伝えられるのか、そのためにどちらが良いのか**と問いましょ。それから、みことばに目を通してしましょ。そうすれば、みことばに答えがあり、現場で神のみわざを体験するようになるでしょう。私はちがうと確認し、自分の戦いはどんな戦いかを考え、現場で救われるべきたましいがたくさん待っていることを覚えるようにお祈りします。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)